

IBM® Analytical Decision Management
バージョン 18 リリース 0

インストール・ガイド

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Analytical Decision Management バージョン 18 リリース 0 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM® Analytical Decision Management
Version 18 Release 0
Installation Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2010, 2015.

目次

第 1 章 製品のインストールと構成	1	コンソール・モードの使用によるアンインストール	24
インストール・ファイル	2	付録. アクセシビリティ	25
前提条件ソフトウェアのインストール	3	特記事項	27
Installation Manager の使用開始	3	商標	28
リポジトリの設定	5	製品資料に関するご使用条件	28
パスポート・アドバンテージの設定	6	索引	31
IBM Analytical Decision Management のインストール	8		
ウィザード・モードでのインストール	8		
コンソール・モードでのインストール	10		
応答ファイルの使用によるサイレント・インストール	12		
IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定	13		
ローカルの IBM Operational Decision Management			
ルールの使用	14		
第 2 章 製品の起動	17		
第 3 章 サンプル・ファイル	19		
第 4 章 セキュリティの考慮事項	21		
第 5 章 IBM Analytical Decision Management のアンインストール	23		
ウィザード・モードの使用によるアンインストール	23		

第 1 章 製品のインストールと構成

IBM® Analytical Decision Management では、IBM SPSS® Collaboration and Deployment Services 8 や IBM SPSS Modeler Server 18 などの前提ソフトウェアのインストールと構成を行う必要があります。システム要件、サポートするアプリケーション・サーバー、データベース、および環境はこれらの前提条件によって異なります。対応バージョンおよびシステム要件の詳細については、<http://www.ibm.com/support> の IBM テクニカルサポートサイトおよび必須ソフトウェアの文書を参照してください。

最新のシステム必要条件情報については、IBM テクニカルサポートサイトの *Support Resources* の下の *Software product compatibility reports* の使用を推奨します。

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/prodguid/v1r0/clarity/index.jsp>

IBM Analytical Decision Management は、以下の例外を除いて、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 8 および IBM SPSS Modeler Server 18 でサポートしているすべての環境をサポートしています。

- Linux for System z では、最適化 (CPLEX ノード) はサポートされていません。

詳細については、前提条件となる製品の資料および製品互換性レポートを参照してください。なお、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services にはリポジトリをホストできるデータベースがリストされ、IBM SPSS Modeler にはデータの読み取り、書き込み、プッシュ・バックがサポートされるデータ・ソースでリストされる点に注意してください。ソース・データがデータベースから提供される場合、実行は、可能なときはいつでも (「SQL プッシュ・バック」と呼ばれるプロセスで) データベースにプッシュ・バックされます。通常、IBM Analytical Decision Management は、IBM SPSS Modeler と同じレベルの SQL プッシュ・バックをサポートしますが、以下の制限があります。

- モデルまたは外部ルールへの参照を持つ追加のフィールドまたは選択ルールがプロジェクトに含まれる場合、これらの参照はデータベースにプッシュ・バックされません。これにより、プロジェクト・ストリーム全体で達成可能なプッシュ・バックの程度が抑制されます。
- IBM SPSS Modeler Advantage 以外のアプリケーションの場合、プッシュ・バックは、選択ルールがアプリケーションで使用される限りにおいてのみ (「グローバル選択」タブ、および「定義」タブの最初のディメンションのメンバー選択でのみ) 使用可能です。プロジェクト・データ・モデルのエンティティ ID として整数フィールドを選択した場合、プッシュ・バックの程度は増加することがあります。

インストールに関する注意事項

必要な場合は、IBM Installation Manager バージョン 1.8.0 以上 (1.8.3 を推奨) を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services、IBM SPSS Modeler Adapter、および IBM Analytical Decision Management を同時にインストールできます。これらはすべて同じマシンにインストールされ、すべて Installation Manager を使用します。前提ソフトウェアをインストールした後で、IBM Analytical Decision Management をインストールすることもできます。いずれの場合でも、IBM SPSS Modeler Server は常に最初にインストールする必要があります。

IBM SPSS Modeler Server 18 をインストールしたら、この資料の手順に従って、IBM Analytical Decision Management を IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーと同じマシンにインストールしてください。製品をインストールするユーザーは、オペレーティング・システムにおいてソフトウェアをイ

インストールする権限、およびインストール先ディレクトリーへの読み書き権限が必要です。インストール後、シンクライアント製品は、ネットワーク接続された任意のマシンの Web ブラウザーからアクセスできます。

IBM Analytical Decision Management ファイルは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services インストール・ディレクトリー (C:\Program Files\IBM\SPSS\Deployment\8.0\Server\components\decision-management など) に追加されます。

重要: 以前のリリースから移行する場合は、IBM Analytical Decision Managementインストールが新しいバージョンをインストールする際に、自動的に以前のバージョンをアンインストールします。カスタム・アプリケーション・テンプレートをお持ちの場合、予防策としてインストール前にコピーを作成しておくことを推奨します。また、ギャラリー内に保持したい項目がある場合は、それを保存してください。アップグレード後にいくつかのギャラリー項目が失われる場合があります。

新しいリリースに移行する際の詳細については、カスタム・アプリケーションの更新に関するマニュアルを含めて、アプリケーションデザイナーのガイドの第 6 章をご参照ください。

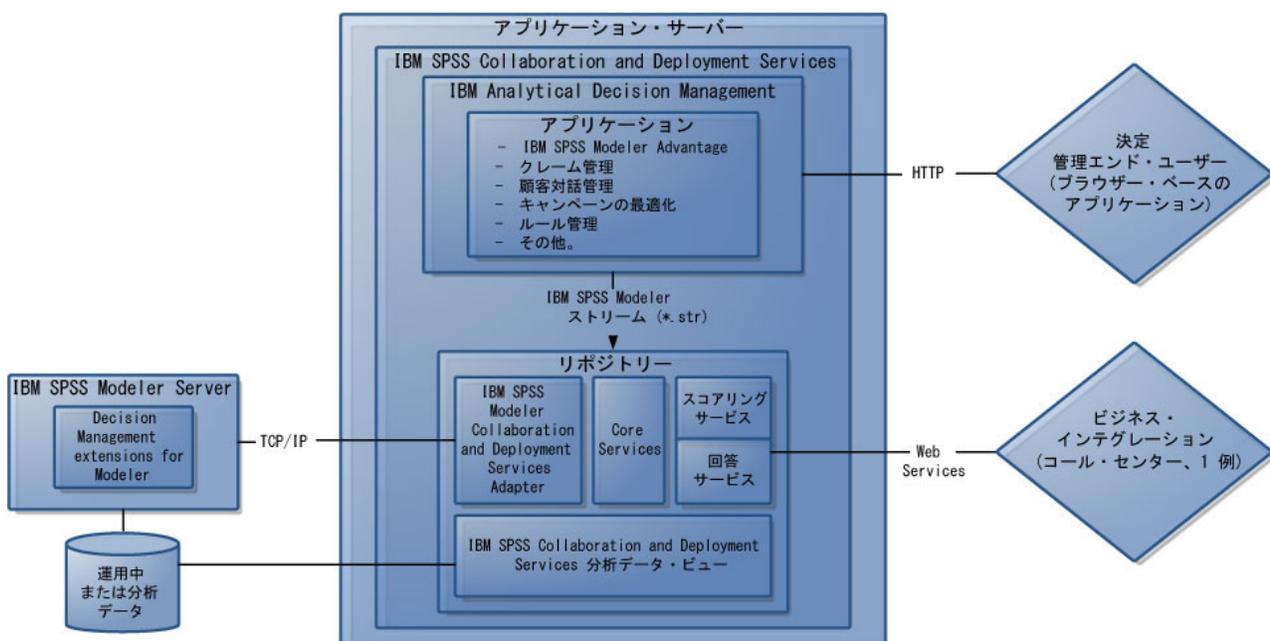


図 1. IBM Analytical Decision Management のインフラストラクチャ

インストール・ファイル

インストールを行う場合は、事前にインストール・ファイルを取得する必要があります。

インストール・ファイルを取得するには、以下のいずれかを行います。

- パスポート・アドバンテージ・サイトからファイルをダウンロードし、ローカルでインストールを行う: ライセンスがあり、パスポート・アドバンテージの ID とパスワードをお持ちのお客様は、パスポート・アドバンテージ・サイトから、必要な製品リポジトリーをダウンロードすることができます。

- 稼働中のリポジトリにアクセスし、Web ベースのインストールを行う: パスポート・アドバンテージの ID とパスワードを持っている場合は、Installation Manager を使用して、IBM がホストしているリポジトリから製品を直接インストールすることができます。

前提条件ソフトウェアのインストール

1. IBM SPSS Modeler Server バージョン 18 をインストールします。インストール先は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services がインストールされるマシンとは別のマシンにすることも、同じマシンにすることもできます。ただし、IBM SPSS Modeler Server は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services が使用するアプリケーション・サーバーと同じタイム・ゾーンで稼働する必要があります。インストールの手順については、IBM SPSS Modeler のマニュアルを参照してください。
2. Installation Manager バージョン 1.8.0 以上 (1.8.3 を推奨) を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services バージョン 8 および IBM SPSS Modeler Adapter を同じマシンにインストールします。詳しくは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services の資料と IBM SPSS Modeler のインストール資料を参照してください。

注:

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services と IBM SPSS Modeler Adapter は、IBM Analytical Decision Management と同時にインストールすることもできます。この方法をお勧めします。

これを行うには、ステップ 2 をスキップし、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services と IBM SPSS Modeler Adapter のインストール・ファイルを入手してから、本書の残りの部分を続行します (8 ページの『IBM Analytical Decision Management のインストール』セクションで、IBM Analytical Decision Management だけをインストールするのではなく、3 つのコンポーネントをすべてインストールします)。

Installation Manager の使用開始

製品のインストール、更新、アンインストールは、IBM Installation Manager を使用することで、ウィザード・モード、コンソール・モード、あるいはサイレント・モードで行うことができます。ただし、これらのタスクを実行する前に、IBM Installation Manager のリポジトリまたはパスポート・アドバンテージの設定を構成する必要があります。

Installation Manager について詳しくは、IBM Installation Manager の資料を参照してください。

ウィザード・モード

ウィザード・モードでは、Installation Manager をグラフィカル・ユーザー・インターフェースから実行します。

通常は、ご使用の Installation Manager のバージョンと共にインストールされたデフォルト・ショートカットを使用して Installation Manager を開始します。

Installation Manager のインストール・ロケーションから、手動で IBMIM アプリケーション・ファイルを実行してウィザード・モードを開始できます。

IBMIM のオペレーティング・システムにおけるデフォルト・ロケーションは、インストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。

表1. IBMIM のデフォルト・インストール・ロケーション

オペレーティング・システム	Administrator	非管理者	「グループ化」
Windows 2008および Windows 2012	C:\Program Files [(x86)]\IBM\Installation Manager\ eclipse	C:\Users\user\IBM\ Installation Manager\ eclipse	
Linux および UNIX	/opt/IBM/ InstallationManager/ eclipse	/user_home_directory/IBM/ InstallationManager/ eclipse	/user_home_directory/IBM/ InstallationManager_Group/ eclipse

コンソール・モード

使用可能なグラフィック・ディスプレイ装置がない場合、またはグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用せずに Installation Manager を実行する場合は、コンソール・モードを使用します。Installation Manager は、コンソール・モードと呼ばれる ASCII テキスト・ベース・モードでのインストールをサポートしています。コンソール・モードは、Installation Manager に対する対話式のテキスト・ベースのユーザー・インターフェースです。例えば、グラフィカル・ユーザー・インターフェースがない場合のサーバー・サイドでのデプロイメントや、リモート・ホストからのインストールの実行に、コンソール・モードを使用します。

コンソール・モードを開始するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド行を開きます。
2. tools サブディレクトリーに移動します。
3. オペレーティング・システムに応じて、次のコマンドを実行します。
 - Windows: imcl.exe -c
 - Linux、UNIX: ./imcl -c

tools のデフォルト・ロケーションは、オペレーティング・システムやインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、Installation Manager の資料を参照してください。

表2. tools サブディレクトリーのデフォルト・インストール・ロケーション

オペレーティング・システム	Administrator	非管理者	「グループ化」
Windows 2008および Windows 2012	C:\Program Files [(x86)]\IBM\Installation Manager\ eclipse\tools	C:\Users\user\IBM\ Installation Manager\ eclipse\tools	
Linux および UNIX	/opt/IBM/ InstallationManager/ eclipse/tools	/user_home_directory/IBM/ InstallationManager/ eclipse/tools	/user_home_directory/IBM/ InstallationManager_Group/ eclipse/tools

サイレント・モード

複数のシステム、または単一のエンタープライズにソフトウェアをデプロイするには、サイレント・インストールを使用します。サイレント・インストールは、応答ファイルによって定義され、コマンド行またはバッチ・ファイルから開始されます。応答ファイルは、製品ディストリビューションに付属しています。詳しくは、12 ページの『応答ファイルの使用によるサイレント・インストール』を参照してください。

リポジトリの設定

IBM Installation Manager リポジトリとは、パッケージをインストール、変更、ロールバック、または更新するためのデータを保管するロケーションです。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う場合は、事前に管理者または IBM にインストール・リポジトリの場所を確認しておいてください。

注: リポジトリの場所を示すパスにアンパーサンド (&) が含まれていると、インストール・リポジトリに正しくアクセスできません。

以下のトピックでは、リポジトリの設定をウィザードおよびコンソール・モードで行うための手順を説明します。

ウィザード・モードでのリポジトリの設定

ウィザード・モードを使用して、リポジトリを追加、編集、または削除したり、リポジトリ・テーブル内のリポジトリの順序を変更したりすることができます。

このタスクについて

リポジトリの資格情報をクリアしたり、リポジトリへの接続をテストしたりすることもできます。IBM 製品のインストール・ファイル内には、diskTag.inf ファイルと repository.config ファイルの両方が含まれている場合があります。リポジトリのロケーションを選択する場合は、diskTag.inf ファイルを使用してください。

手順

リポジトリ・ロケーションを追加、編集、または削除するには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「リポジトリ」のとクリックします。「リポジトリ」ページが開き、使用可能なリポジトリ、リポジトリのロケーション、およびリポジトリの接続状況が表示されます。
3. 「リポジトリの追加」をクリックします。
4. リポジトリのロケーションを入力するか、「参照」をクリックします。参照する場合は、リポジトリのロケーションに移動し、現在の環境に応じて、diskTag.inf ファイル、repository.config ファイル、.zip ファイル、または .jar ファイルを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

HTTPS または制限付き FTP のリポジトリのロケーションを指定した場合は、ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。新しいリポジトリ・ロケーションがリストに追加されます。リポジトリに接続していない場合は、「接続」列に赤のボックスが表示されます。

6. オプション: 「インストール中および更新中にサービス・リポジトリの検索」を選択します。Installation Manager は、IBM.com のサービス・リポジトリで、インストール済みパッケージの更新を検索します。
7. 「OK」をクリックして、「設定」ページを閉じます。

リポジトリをコンソール・モードで設定

コンソール・モードを使用することで、リポジトリの追加、削除、オープン、移動、またはクローズができます。

このタスクについて

選択されているオプションは大括弧に入れられた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。 **Enter** を押してデフォルトの項目を選択することも、異なるコマンドを選択することもできます。例えば [N] は、デフォルトの選択が「N」 (**N**ext コマンド) であることを示します。

手順

リポジトリを追加するには、以下の手順を実行します。

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで **Installation Manager** を開始します。詳しくは、3 ページの『**Installation Manager** の使用開始』を参照してください。
2. 「P」 (「P: 設定」) を入力します。
3. 「1」 (「1: リポジトリ」) を入力します。
4. 「D」 (「D: リポジトリの追加」) を入力します。
5. リポジトリのロケーション (`C:\%installation_files%\repository.config` など) を入力します。 資格情報を必要とするリポジトリを追加した場合、必要な資格情報を求めるプロンプトが出されます。

リポジトリのロケーションを入力する場合は、大/小文字を正しく使用してください。大/小文字を正しく使用しないと、インストール対象として選択可能なパッケージのリストにそのパッケージが表示されません。

- a. 「P」 (「P: 資格情報を指定して接続する」) を入力します。
 - b. `user_name` を入力して **Enter** キーを押します。
 - c. `password` を入力して **Enter** キーを押します。
 - d. 「1」を入力してパスワードを保存します。
 - e. 「0」 (「O: OK」) を入力します。
6. 変更を適用して「設定」メニューに戻る場合は、「A」と入力します。
 7. 「R」と入力すると、メインメニューに戻ります。

パスポート・アドバンテージの設定

IBM **Installation Manager** から、パスポート・アドバンテージのインストール・パッケージにアクセスすることができます。 **Passport Advantage**®は、IBM ソフトウェア製品をオンラインで一元的に入手するための場所です。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う場合は、事前にパスポート・アドバンテージの有効な資格情報を入手しておいてください。

以下のトピックでは、パスポート・アドバンテージの設定をウィザードおよびコンソール・モードで行うための手順を説明します。

ウィザード・モードでのパスポート・アドバンテージの設定

Installation Manager パスポート・アドバンテージの設定により、パスポート・アドバンテージにウィザード・モードで接続することができます。

このタスクについて

重要: Installation Manager のインスタンスを他のユーザーと共有する場合は、Installation Manager の資料で、管理者、非管理者、グループとしてのインストールに関する情報を参照してください。

手順

パスポート・アドバンテージの設定を行うには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「Passport Advantage」をクリックします。
3. 「パスポート・アドバンテージへ接続」チェック・ボックスを選択して、「パスポート・アドバンテージ」リポジトリへ接続します。「パスワードが必要です」ウィンドウが開きます。
4. パスポート・アドバンテージのユーザー名とパスワードを入力します。
5. オプション: 「パスワードの保存」を選択し、ユーザー名とパスワード資格情報を保存します。

ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、パスポート・アドバンテージにアクセスするたびにこれらの資格情報を求めるプロンプトが出されます。

6. 「OK」をクリックして、「パスワードが必要です」ウィンドウを閉じます。
7. 「OK」をクリックして、「設定」ウィンドウを閉じます。

次のタスク

保存されたユーザー名およびパスワード資格情報を削除するには、以下の手順を実行します。

1. 「ファイル」 > 「設定」 > 「Passport Advantage」をクリックします。
2. 「資格情報のクリア」をクリアします。
3. 「資格情報のクリアの確認」ウィンドウで、「OK」をクリックします。

コンソール・モードでのパスポート・アドバンテージの設定

Installation Manager パスポート・アドバンテージの設定により、パスポート・アドバンテージにコンソール・モードで接続することができます。

手順

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。
2. 「P」 (「P: 設定」) を入力します。
3. 「6」 (「6: パスポート・アドバンテージ」) を入力します。
4. 「1」 (「1: パスポート・アドバンテージへ接続」) を入力します。選択されているオプションは大括弧に入れられた X ([X]) で示されます。
5. 「P」 (「P: 資格情報を指定して接続する」) を入力します。
6. パスポート・アドバンテージ・アカウント用のユーザー名を入力します。
7. パスワードを入力します。

ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、パスポート・アドバンテージにアクセスするたびにこれらの資格情報を求めるプロンプトが出されます。

- a. オプション: パスワードを入力した場合は、「1」（「1: パスワードを保存する (有効な場合)」を入力します。
8. 「O」（「O: OK」）を入力して資格情報を保存します。

IBM Analytical Decision Management のインストール

IBM Analytical Decision Management のインストールは、ウィザード、コンソール、またはサイレント・モードで行えます。

インストールを開始する前に、アプリケーション・サーバーおよび IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーをシャットダウンする必要があります。

ウィザード・モードでのインストール

IBM Analytical Decision Management のインストールは、IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して行うことができます。

始める前に

インストールする前に、IBM Installation Manager が、パッケージが含まれているリポジトリにアクセスできる必要があります。また、インストールの開始前に、アプリケーション・サーバーおよび IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーもシャットダウンする必要があります。

- IBM パスポート・アドバンテージ・アカウントがある場合は、パスポート・アドバンテージ・サイトからパッケージをインストールすることができます。パスポート・アドバンテージ・リポジトリへの接続について詳しくは、6 ページの『ウィザード・モードでのパスポート・アドバンテージの設定』を参照してください。
- パスポート・アドバンテージ・サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、5 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリの設定』を参照してください。

手順

IBM Analytical Decision Management をインストールするには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。
2. Installation Manager で、「インストール」をクリックします。Installation Manager は、使用可能なパッケージについて定義されたリポジトリを検索します。使用可能なパッケージが見つからない場合は、リポジトリを正しく指定したことを確認します。5 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリの設定』を参照してください。
3. Installation Manager の新しいバージョンが検出されると、インストールの確認を求めるプロンプトが表示されることがあります。「はい」をクリックして続行します。Installation Manager は、新規バージョンを自動的にインストールして、再始動、および再開します。
4. Installation Manager の「インストール」ページに、Installation Manager が検索したリポジトリで検出されたすべてのパッケージがリストされます。最新バージョンのパッケージのみが表示されます。Installation Manager で検出されたすべてのバージョンのパッケージを表示するには、「すべてのバージョンを表示」を選択します。パッケージ・バージョンをクリックすると、「詳細」ペインにパッケージの説明が表示されます。パッケージに関する追加情報がある場合は、説明テキストの終わりに「詳細情報」リンクがあります。

Installation Manager をグループ・モードで実行している場合は、グループ・モードでのインストールに対応したパッケージのみをインストールすることができます。グループ・モードでのインストールに対応していないパッケージの場合にはエラーが表示され、そのパッケージのインストールをグループ・モードで続行することはできません。

5. IBM Analytical Decision Management パッケージを選択します。「次へ」をクリックします。
6. 「ライセンス」ページで、選択したパッケージのご使用条件を読んでください。ご使用条件に同意した後、「次へ」をクリックして続けます。
7. 「ロケーション」ページで、「共有リソース・ディレクトリー (Shared Resources Directory)」フィールドに共有リソース・ディレクトリーのパスを入力します。共有リソース・ディレクトリーには、複数のパッケージ・グループが共有できるリソースが含まれています。「次へ」をクリックします。

重要: 共有リソース・ディレクトリーは、パッケージの初回インストール時にのみ指定できます。今後のパッケージの共有リソース用に十分なスペースを確保できるよう、十分な使用可能スペースがあるドライブを選択してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、共有リソース・ディレクトリーのロケーションを変更することはできません。

8. 「場所」ページで、パッケージのインストール先となるパッケージ・グループを選択するか、パッケージ・グループを作成します。パッケージ・グループは、パッケージが同一グループ内の他のパッケージと共有するリソースが含まれるディレクトリーです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。複数のパッケージをインストールのために選択する場合は、パッケージの資料で、それらのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールできることを確認してください。同じパッケージ・グループにインストールできないパッケージについては、1つのパッケージ・グループに1つのパッケージをインストールします。インストールの完了後、別のパッケージ・グループに2番目のパッケージをインストールします。

オプション	説明
既存のパッケージ・グループの使用	パッケージのインストール先となるパッケージ・グループを選択します。選択したグループとの互換性がインストール中のパッケージにない場合は、アラートによって競合が報告されます。グループに互換性がない場合は、別のグループを選択するか、新しいグループを作成します。
新規パッケージ・グループの作成	「参照」をクリックして、パッケージのインストール・ディレクトリーを指定します。64ビットのオペレーティング・システムにインストールしている場合は、インストールのアーキテクチャーに32ビットまたは64ビットのいずれかを選択します。

「次へ」をクリックして、インストールを続行します。

9. 次の「ロケーション」ページで、パッケージ・グループのパッケージにインストールする翻訳を選択します。グラフィカル・ユーザー・インターフェースおよび文書について、対応する言語翻訳がインストールされます。選択内容は、このパッケージ・グループにインストールされているすべてのパッケージに適用されます。このオプションは、一部の製品のインストール済み環境には適用されない場合があります。「次へ」をクリックして続けます。
10. 「フィーチャー」ページで、インストールするパッケージ・フィーチャーを選択します。「インストール・タイプ」には、必要に応じて「実働」または「非実働」を選択します。
 - a. オプション: フィーチャー間の依存関係を確認するには、「**依存関係の表示 (Show Dependencies)**」を選択します。
 - b. オプション: フィーチャーをクリックすると、フィーチャーの簡単な説明が「**詳細**」の下に表示されます。

- c. パッケージでフィーチャーを選択またはクリアします。 Installation Manager は、他のフィーチャーとの依存関係を自動的に適用し、更新されたダウンロード・サイズおよびインストールのディスク・スペース要件を表示します。 パッケージ用に選択されたデフォルト・フィーチャーに戻すには、「**デフォルトを復元**」をクリックします。
11. フィーチャーの選択が終了したら、「**次へ**」をクリックします。
 12. パッケージをインストールする前に「**要約**」ページで選択項目を検討します。

Windows では、Installation Manager が、実行中のプロセスを検査します。 プロセスがインストールを妨げている場合、そのプロセスのリストが「**ブロッキング・プロセス**」セクションに表示されます。 インストールを続行するには、このようなプロセスを停止する必要があります。「**妨害プロセスをすべて停止 (Stop All Blocking Processes)**」をクリックします。 停止しなければならないプロセスが存在しない場合、このリストは表示されません。 実行中のプロセスは、Installation Manager によってアクセスまたは変更されなければならないファイルをロックしています。

13. 「**インストール**」をクリックします。 インストール・プロセスが完了すると、確認メッセージを受け取ります。

コンソール・モードでのインストール

IBM Analytical Decision Management のインストールは、IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して行うことができます。

始める前に

インストールする前に、Installation Manager が、パッケージが含まれているリポジトリにアクセスする必要があります。また、インストールの開始前に、アプリケーション・サーバーおよび IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーもシャットダウンする必要があります。

- IBM パスポート・アドバンテージ・アカウントがある場合は、パスポート・アドバンテージ・サイトからパッケージをインストールすることができます。パスポート・アドバンテージ・リポジトリへの接続について詳しくは、7 ページの『コンソール・モードでのパスポート・アドバンテージの設定』を参照してください。
- パスポート・アドバンテージ・サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、6 ページの『リポジトリをコンソール・モードで設定』を参照してください。

手順

コンソール・モードでインストールするには、以下の手順を実行します。

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。

`imcl` のデフォルト・ロケーションは、オペレーティング・システムやインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。

2. 「1」 (1: インストール - ソフトウェア・パッケージをインストールします) を入力します。 インストールできるパッケージがリストされます。

資格情報が必要なリポジトリがあるが資格情報を保存しておかなかった場合、これらの資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。

3. 「1」 ([] *package_name*) を入力します。 パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。この例では、リスト内の最初のパッケージを選択しています。選択したパッケージで Installation Manager の新しいバージョンが必要な場合は、その新しいバージョンをインストールするためのプロンプトが表示されます。
4. 「選択」画面で、インストールするパッケージの横にある番号を入力します。
 - **1:** インストールするバージョン *package_version* を選択してください。このオプションは、インストール対象として選択されていないパッケージを選択した場合に表示されます。

インストール対象として選択されているパッケージを選択した場合は、オプション「1」 (「1: バージョン *package_version* をインストールしないでください」) が表示されます。
 - **2:** パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します。
5. オプション: 「0」: 「他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」を入力します。Installation Manager は使用可能なリポジトリを調べて、選択したパッケージの他のバージョン、フィックスまたは拡張機能を検索します。
 - インストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリを Installation Manager に検索させるには、「インストールと更新を行っている間にサービス・リポジトリをサーチします」という設定を選択する必要があります。デフォルトではこの設定が選択されます。この設定にアクセスするには、「リポジトリ」設定ページに移動してください。
 - 通常は、インターネット・アクセスが必要です。
 - 「他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」オプションでは、検出された他のバージョン、フィックス、または拡張機能の数が表示されますが、検出された項目のリストは表示されません。使用可能なバージョンを表示するには、パッケージの横にある番号を入力し、さらに「2」 (「2: パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します」) を入力してください。
6. 「N」 (「N: 次へ」) と入力します。
7. 「ライセンス」画面のオプションは次のとおりです。
 - **1:** *product_name* - ご使用条件。使用条件を確認するには、製品名の横にある数字を入力します。この例では、リスト内の最初のご使用条件を選択しています。
 - **A:** 「[] 使用条件の条項に同意します」。
 - **D:** 「[] 使用条件の条項に同意しません」。ご使用条件に同意しないと、インストールは中止されます。インストールを続行するには、ご使用条件に同意する必要があります。
 - a. 「A」を入力して、ご使用条件に同意します。
 - b. 「N」 (「N: 次へ」) と入力します。
8. 「共有リソース・ディレクトリー」の値に別の値を入力するには、「M」 (「M: 共有リソース・ディレクトリー」) を入力します。共有リソース・ディレクトリーのデフォルト値を受け入れる場合、また別の値を入力した後で先に進むには、「N: 次へ」を入力します。

重要: 共有リソース・ディレクトリーは、パッケージの初回インストール時にも指定できます。今後のパッケージの共有リソース用に十分なスペースを確保できるよう、十分な使用可能スペースがあるドライブを選択してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、共有リソース・ディレクトリーのロケーションを変更することはできません。
9. オプション: パッケージ・グループのロケーションに別の値を入力するには、「M」: 「ロケーションの変更」を入力します。デフォルト値を受け入れるか、別の値を入力してから続行するには、「N」 (「N: 次へ」) を入力します。

パッケージ・グループは、パッケージが同一グループ内の他のパッケージと共有するリソースが含まれるディレクトリーです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。複数のパッケージをインストールのために選択する場合は、パッケージの資料で、それらのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールできることを確認してください。同じパッケージ・グループにインストールできないパッケージについては、1つのパッケージ・グループに1つのパッケージをインストールします。インストールの完了後、別のパッケージ・グループに2番目のパッケージをインストールします。

10. インストール対象の言語のリストで言語を追加または削除するには、言語の横にある番号を入力します。一度に選択できる言語は1つのみです。「N」（「N: 次へ」）と入力します。英語はデフォルトで選択されています。英語は選択解除できません。言語の選択は、パッケージ・グループにインストールされたすべてのパッケージに適用されます。
11. インストール対象のフィーチャーのリストとの間でフィーチャーを追加または削除するには、フィーチャーの横にある番号を入力します。「N」（「N: 次へ」）と入力します。製品に使用可能なフィーチャーがない場合、この画面は表示されません。
12. パッケージをインストールする前に、「要約」画面で選択内容を確認します。

オプション: 応答ファイルを生成するには、「G」（「G: インストール応答ファイルを生成します」）を入力します。応答ファイルの名前を入力します。ファイル拡張子には `.xml` を使用します。応答ファイルは、XML ファイルです。応答ファイル名を入力するときにディレクトリーのロケーションを含めることで、そのファイルを別のロケーションに保存することもできます。

13. 「I」（「I: インストール」）を入力します。
14. インストールが完了したら、「F」（「F: 終了」）を入力します。

応答ファイルの使用によるサイレント・インストール

応答ファイルを使用することで、サイレント・モードでインストールすることができます。

始める前に

インストール・パッケージで提供されている `SilentInstallOptions` 応答ファイルを見つけます。インストールの開始前に、アプリケーション・サーバーおよび IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーをシャットダウンする必要があります。

手順

サイレント・モードでパッケージをインストールするには、以下の手順を実行します。

以下の手順で `imcl` コマンドを実行します。

- Windows の場合: `imcl.exe input response_file -log log_file`
- Linux および UNIX の場合: `./imcl input response_file -log log_file`

`imcl` のデフォルト・ロケーションは、オペレーティング・システムやインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。

タスクの結果

インストールが完了すると、ステータス `0` が戻されます。インストールが完了できなかった場合は、ゼロ以外の数字が戻されます。

ログ・ファイルを使用することができます。詳しくは、Installation Manager の資料を参照してください。

例

表 3. オペレーティング・システム別のインストール・コマンド

オペレーティング・システム	コマンド
Windows	<code>imcl.exe input c:%response_files%install.xml -log c:%mylog%install_log.xml -acceptLicense</code>
Linux、UNIX	<code>./imcl input /response_files/install.xml -log /mylog/install_log.xml -acceptLicense</code>

スペースを含むファイル・パスは、二重引用符で囲みます。

IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定

IBM Analytical Decision Management をインストール後、IBM SPSS Modeler Server で使用するためのサーバーの名前と資格情報を設定する必要があります。サーバーの名前と資格情報は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager クライアント・ソフトウェアで定義されます。

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーおよび IBM SPSS Modeler Server を起動します。
2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager クライアント・ソフトウェアを開き、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository 接続にログオンします。
3. リソース定義で、資格情報を展開し、IBM SPSS Modeler Server の資格情報で使用される名前をメモに記録します。その後、サーバーを展開し、IBM SPSS Modeler Server の定義で使用される名前をメモに記録します。資格情報とサーバーの名前をまだ定義していない場合は、ここで定義します。

なお、サーバー名と資格情報の両方に名前 *modeler* を使用した場合、以下に示すように、複数の IBM SPSS Modeler Server 定義があつて、複数の定義を指定する場合を除き、このセクションのステップを実行する必要はありません。

4. ブラウザー・ベースの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager (セットアップ・タスクとシステム管理タスクを実行するためのシンクライアント・インターフェース) を開きます。デフォルトの URL は `http://hostname:port/config` です (*hostname* は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services がインストールされているマシンの名前または IP アドレス、*port* はご使用のアプリケーション・サーバーのポート番号)。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 管理者アカウントの資格情報を使用してログオンします。

IBM Analytical Decision Management の URL またはいずれかの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services の URL にアクセスする際に問題が発生する場合は、管理者がそれらをカスタマイズしている可能性があります。管理者に連絡してください。詳しい情報については、「*IBM SPSS Collaboration and Deployment Services* リポジトリのインストールおよび設定ガイド」の『アプリケーションのコンテキスト・ルート』の章を参照してください。

5. 設定で、**IBM Analytical Decision Management** セクションに移動します。使用する IBM SPSS Modeler Server 接続の名前および上述の資格条件を入力します。名前は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager クライアントで定義されている名前と完全に一致する必要があります。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Managerで定義された複数のIBM SPSS Modeler Server資格情報がある場合、ここでも複数の資格情報を指定できます。そうすると、IBM Analytical Decision Management ユーザーがログオンすると、サーバーはリスト内の最初の資格情報を使用してそのユーザーが権限を持っているかを確認し、適切な権限を持つ資格情報が見つかるまで、リスト内を順番に確認していきます。

ユーザーが、順番付けられたリスト内のどの資格情報に対しても権限がない場合、そのユーザーは IBM Analytical Decision Management を使用できません。

ユーザーが複数の資格情報に対して権限がある場合、IBM Analytical Decision Management ログイン画面でユーザーはセッションに対してどれを使用するか選択するよう要求されます。

例えば、*modeler1*、*modeler2*、および *modeler3* という名前で定義された 3 つの異なる IBM SPSS Modeler Server 資格情報がある場合、ブラウザベースの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で *modeler1*、*modeler2*、*modeler3* と入力できます。

IBM SPSS Modeler Server資格情報はOSユーザーIDおよびパスワードに対応し、IBM SPSS Modeler Server機へのファイルアクセスを管理するためのOSセキュリティーシステムの使用を可能にします。例えば、あるユーザーにはファイルの読み取りのみのアクセスを与え、他のユーザーには書き込みアクセスを与えたいかも知れません。

セキュリティーに関する検討事項については、21 ページの『第 4 章 セキュリティーの考慮事項』を参照してください。

6. 「設定」をクリックして保存し、ログアウトします。

IBM SPSS Analytic Server 資格情報の接尾辞

管理者は、Analytic Server 資格情報の名前を追加する接尾辞を構成することもできます。これにより、IBM Analytical Decision Management の Analytic Server 接続で使用される資格情報の名前が派生されます。

1. ブラウザーベースの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager を開きません。
2. 「設定」で、「**IBM Analytical Decision Management**」セクションに移動し、「**IBM SPSS Analytic Server 資格情報の接尾辞**」をクリックします。
3. 使用する IBM SPSS Modeler Server 資格情報に追加する接尾辞を入力し、Analytic Server 接続に使用します。例えば、接尾辞を **_AS** に設定し、ユーザーが許可された IBM SPSS Modeler Server が **MarketingCredential** の場合、Analytic Server 資格情報の名前として **MarketingCredential_AS** が使用されます。その後、**MarketingCredential_AS** 資格情報が存在し、エンドユーザーがそれに対するアクセス権限を持っていれば、credential exists and the end user has access to it, IBM Analytical Decision Management はその資格情報を IBM SPSS Modeler Server 接続と共に渡します。

ローカルの IBM Operational Decision Management ルールの使用

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager クライアントで、「**新しい外部ルールの追加**」ダイアログボックスを使用して、IBM WebSphere Operational Decision Management ルールへの参照を定義することができます。当該ルールは、これにより IBM Analytical Decision Management で使用できます。これらのルールには Web サービスからアクセスするか、ローカルの Operational Decision Management ルール実行サーバーに展開されたルールを参照できます。

ローカルに展開された Operational Decision Management ルール・セットを参照する予定の場合、いくつかのインストールおよび構成ステップが必要です。詳細な説明と手順に関しては、「*IBM Analytical Decision*

*Management*アプリケーション設計者ガイド」 5 章の『ルール実行サーバーのセットアップ』セクションまたは「新規外部ルールの追加」ダイアログボックスで使用可能なヘルプを参照してください。

ローカルの Operational Decision Management ルールを IBM Analytical Decision Management で使用するには、IBM WebSphere Operational Decision Management V8.6.0.0 が必要です。IBM WebSphere Operational Decision Management V8.5 では WSDL のみがサポートされています。

第 2 章 製品の起動

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーおよび IBM SPSS Modeler Server が起動されていることを確認します。これらを始動する必要がある場合は、数分間待機してから、サポートされている Web ブラウザーで IBM Analytical Decision Management を起動します (<http://hostname:port/DM>)。ここで、*hostname* は IBM SPSS Collaboration and Deployment Services がインストールされているマシンの名前または IP アドレス、*port* はご使用のアプリケーション・サーバーのポート番号)。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services では、その Web アプリケーションの URL をカスタマイズできるようになりました。このカスタマイズを行う場合は、IBM Analytical Decision Management の URL もそれに応じて変更されることに注意してください。詳しくは、「*IBM SPSS Collaboration and Deployment Services* リポジトリのインストールおよび設定ガイド」の『アプリケーションのコンテキスト・ルート』の章を参照してください。

2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 管理者アカウントの資格情報、または IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で設定されているその他のユーザー資格情報を使用してログインします。製品の使用を開始するに、ここで IBM Analytical Decision Management の管理者、ユーザー、グループを必要に応じて構成することをお勧めします。詳しくは、ユーザー・ガイド PDF またはオンライン・ヘルプの『アプリケーションの管理』の章を参照してください。

注:

- サンプル・アプリケーションを少なくとも 1 つインストールするか、または独自の設定を行うまでは、ログオンできません。アプリケーションのカスタマイズと設定の詳細については、『アプリケーション・デザイナー ガイド』を参照してください。
- ログオンできない場合、Web ブラウザーのキャッシュを消去するとログオンできるようになる場合があります。時には、以前のバージョンの製品からのキャッシュ・ファイルが問題の原因となる場合があります。

第 3 章 サンプル・ファイル

IBM Analytical Decision Management には、ユーザー・ガイドに示されている例の再現に使用できるデータおよびその他のサンプル・ファイルが付属しています。

データ

インストール時に、多数のサンプル・データ・ファイルが IBM SPSS Modeler Server の *¥Demos* ディレクトリ（例えば *C:¥Program Files¥IBM¥SPSS¥ModelerServer¥I8¥Demos*）にインストールされます。このデータは、事前構築されたサンプル・アプリケーションで使用することができ、以下が含まれます。

- *bank_customer_data.txt*
- *bank_response_data.txt*
- *customer_contact_history.txt*
- *customer_summary_data.txt*
- *insurance_claim_data.txt*
- *insurance_fraud_data.txt*
- *inventory_orders.txt*
- *inventory_stock.txt*
- *machine_log_data.txt*
- *machine_summary_data.txt*
- *retail_purchase_data.txt*

これらのデータ・ファイルを使用するサンプル・アプリケーション・ファイル、モデル、およびルールは、上記のデフォルトの場所が使用されることを前提としています。データ・ファイルが別のドライブまたは場所にインストールされている場合は、それに応じて、サンプル・アプリケーションでデータ・ソース・パスを更新する必要があります。

サンプル

既製の IBM Analytical Decision Management アプリケーションで使用できる多数のサンプル・アプリケーション・ファイル、モデル、およびルールが用意されています。サンプルは、電子ダウンロード可能なファイルで提供されます。1 つ以上の事前構築アプリケーション用のサンプル・ファイルを IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository にインポートするには、以下のステップを実行します。

1. ファイル *ADM_18_Demo.zip* を一時的な場所にダウンロードして解凍します。
2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager を開き、コンテンツ・サーバー接続にログオンします。
3. 「コンテンツ・リポジトリ」フォルダーを右クリックし、「インポート」を選択します。
4. 「インポート」ダイアログ・ボックスで「参照」をクリックし、ステップ 1 で一時的な場所にコピーまたは解凍した *DecisionManagementExamples.pes* ファイルを選択します。「OK」をクリックします。
5. 「インポート競合」ダイアログで「OK」をクリックします。インポートが完了すると、IBM Analytical Decision Management で開くことのできるサンプル・プロジェクトが格納された以下の新しいフォルダーが表示されます。

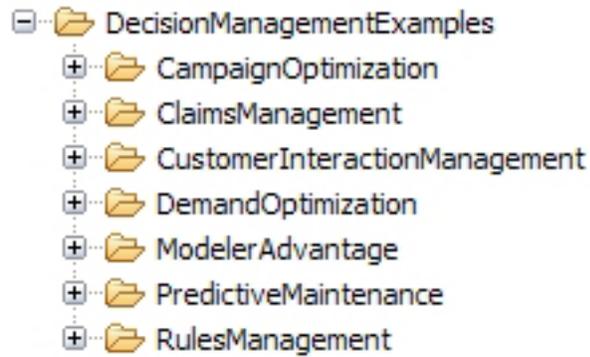


図2. サンプル成果物のフォルダー

すべてのサンプル・アプリケーション・ファイル、モデル、ルールでは、データ・ファイルが IBM SPSS Modeler Server の *Demos* ディレクトリー (例: `C:\Program Files\IBM\SPSS\ModelerServer\18\Demos`) にインストールされていることを想定しています。データ・ファイルが別の場所にインストールされる場合は、ローカル構成用にサンプル・アプリケーションでデータ・ソース・パスを更新する必要があります。

第 4 章 セキュリティーの考慮事項

このセクションには、IBM Analytical Decision Management のインストールおよび設定のためのセキュリティー関係の情報が記載されています。

- Web ブラウザーの多くは現在、「HttpOnly」Cookie というセキュリティー機能をサポートしています。HttpOnly 機能をセッション・クッキー生成時に使用すると、クライアント側のスクリプトが保護されたセッション・クッキーにアクセスするリスクを軽減できます。Java の制限によりIBM Analytical Decision Management は現在、HttpOnly 機能を使用せずにセッション・クッキーを生成します。このセキュリティー機能を利用するには、セッション・クッキー が HttpOnly 機能を指定して生成されるよう、アプリケーション・サーバーを設定する必要があります。お使いのアプリケーション・サーバーの文書を参照してください。
- IBM Analytical Decision Management でWeb ブラウザーからサーバーに転送される際、パスワードは暗号化されません。このことが組織にとって問題の場合は、セキュア ソケット・レイヤー (SSL) を使用してください。SSL の使用に関する詳細については、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services の文書を参照してください。
- ブラウザーベースのIBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Managerで複数の組みのIBM SPSS Modeler Server資格情報を指定した場合(13 ページの『IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定』を参照)、サーバーがリスト内の1番目の資格情報で、ユーザーに権限があるか確認し、適切な権限のある資格情報が見つかるまで、リスト内で順に処理を進めます。管理者は、リスト内の資格情報の順序に気をつける必要があります。IBM SPSS Modeler Server 上のデータに対するアクセス制限が最も少ない資格情報がリストの一番最初に来る必要があります。IBM SPSS Modeler Server資格情報はOSユーザーIDおよびパスワードに対応し、IBM SPSS Modeler Server機へのファイルアクセスを管理するためのOSセキュリティーシステムの使用を可能にします。例えば、あるユーザーにはファイルの読み取りのみのアクセスを与え、他のユーザーには書き込みアクセスを与えたいかも知れません。

ユーザーが複数の IBM SPSS Modeler Server または資格情報 (あるいはその両方) に対する権限を持っている場合、IBM Analytical Decision Management ログイン画面でユーザーはセッションに対してどれを使用するか選択するよう要求されます。

- ファイル・アップロード機能は、IBM Analytical Decision Management のデータ・ソース・エディター経由で使用することができます。使用可能な場合、ローカルのデータ・ファイルを IBM SPSS Modeler Server にアップロードできます。詳細については、ヘルプの「データ・ソースの管理」セクションまたはユーザーズ・ガイドを参照してください。管理者は、アップロードできる最大ファイル・サイズの制御や、この機能の有効化または無効化を併せて行うことができます (デフォルトでは無効)。大きすぎるファイルをアップロードさせたくない場合は、最大ファイル・サイズを許容可能なサイズに設定する必要があります。
 - ブラウザーベースの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager を開き、設定の下で、**IBM Analytical Decision Management** に移動します。「最大アップロード・サイズ」をクリックして、ユーザーがアップロードできる最大ファイル・サイズをキロバイト単位で設定します。ユーザーがデータ ファイルをアップロードできないようにするには、値を **0** に設定します。
 - ファイル・アップロード機能を有効にする前に管理者は、適切なセキュリティー方法が有効か確認する必要があります。ユーザーに IBM SPSS Modeler Server に対する適切なアクセス権限があるかを確認する必要があります。例えば、システム・ファイルに対するアクセス権を除外して、ユーザーが潜在的なウィルスでシステム・ファイルを防ぎたいと思う場合があるかもしれません。

- DBC 接続で、IBM SPSS Modeler Server に対するシングル・サインオン (SSO) と、IBM Analytical Decision Management への ODBC データベース接続を使用する場合は、IBM Analytical Decision Management にログオンする前に、以下の手順を実行する必要があります。
 - SSO を使用するようにサーバー・システムとクライアント・システムを構成します。
 - IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager クライアントで SSO を構成します。詳細については、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager の資料を参照してください。
 - ODBC 接続がサポートされるように IBM SPSS Modeler 環境が構成されていることを確認します。
 - ブラウザー・ベースの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で「**Modeler SSO 有効化**」オプションを有効にします。

注: この SSO オプションが有効な場合、IBM SPSS Modeler Server 名および資格情報の設定は使用されません。13 ページの『IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定』を参照してください。

- 「**データベース SSO 有効化**」というオプションもあります。IBM SPSS Modeler 資格情報のシングル・サインオンは有効にするが、データベース資格情報に対しては有効にたくない場合、「**データベース SSO 有効化**」オプションを選択解除できます。このオプションは、「**Modeler SSO 有効化**」も選択されていない限り、効果はありません。
- SSO の有効化または IBM SPSS Modeler Server 名および資格情報の設定以外の別のオプションが用意されています。

第 5 章 IBM Analytical Decision Management のアンインストール

IBM Analytical Decision Management のアンインストールは、ウィザード・モードで実行することも、コンソール・モードで実行することもできます。

IBM Analytical Decision Management をインストールするために使用したアカウントと同じ特権が付与されているユーザー・アカウントでログインする必要があります。

重要: IBM Analytical Decision Management のプログラム・ディレクトリーにある特定のファイル (プログラム・データなど) は、IBM Installation Manager で削除することはできません。IBM Analytical Decision Management のすべてのファイルをシステムから完全に削除するには、プログラム・ディレクトリーを、IBM Installation Manager とともにアンインストールした後に、手動で削除する必要があります。

アンインストールが失敗した場合は、packages ディレクトリー内にある製品ディレクトリー (例: C:\Program Files\IBM\SPSS\Deployment\7.0\Server\packages\<product directory>) を手動で削除する必要があります。

ウィザード・モードの使用によるアンインストール

IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して、IBM Analytical Decision Management をアンインストールできます。

始める前に

アンインストールするパッケージのインストール時に使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログインする必要があります。

手順

IBM Analytical Decision Management をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。

IBMIM のデフォルト・ロケーションは、オペレーティング・システムやインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。

3. Installation Manager で、「アンインストール」をクリックします。
4. 「アンインストール」ウィザードで、IBM Analytical Decision Management パッケージを選択します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「要約」ページで、選択内容の見直しをします。選択項目を変更するには、「戻る」をクリックします。選択がそのままであれば、「アンインストール」をクリックします。

Windows では、Installation Manager が、実行中のプロセスを検査します。プロセスがアンインストール処理を妨げている場合、そのプロセスのリストが「ブロッキング・プロセス」セクションに表示されます。アンインストール処理を続行する前に、このようなプロセスを停止する必要があります。「妨害

プロセスをすべて停止 (Stop All Blocking Processes)」をクリックします。停止しなければならないプロセスが存在しない場合、このリストは表示されません。実行中のプロセスは、Installation Manager によってアクセスまたは変更されなければならないファイルをロックしています。

- アンインストール・プロセスが完了すると、「完了」ページが開き、アンインストール・プロセスの終了が確認されます。

コンソール・モードの使用によるアンインストール

IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して、IBM Analytical Decision Management をアンインストールできます。

始める前に

パッケージをインストールするために使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログインする必要があります。

このタスクについて

選択されているオプションは大括弧に入れられた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。Enter を押してデフォルトの項目を選択することも、異なるコマンドを選択することもできます。例えば [N] は、デフォルトの選択が「N」 (Next コマンド) であることを示します。

手順

IBM Analytical Decision Management をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
- imcl -c を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。

imcl のデフォルト・ロケーションは、オペレーティング・システムやインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なってきます。詳しくは、3 ページの『Installation Manager の使用開始』を参照してください。

- 「5」 (「5: アンインストール - インストール済みソフトウェア・パッケージを削除します」) を入力します。
- IBM Analytical Decision Management パッケージ・グループを選択するには、パッケージ・グループの横にある番号を入力します。
- 「N」 (「N: 次へ」) を入力して続行します。
- パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。

オプション: すべてのパッケージをアンインストール対象として選択するには、「A」 (「A: パッケージをすべて選択します」) を選択します。「A」: 「パッケージの選択をすべて解除します」オプションは、アンインストール対象としてすべてのパッケージが選択されている場合に表示されます。

- アンインストールする前に、「要約」パネルで選択内容を確認します。「U」 (「U: アンインストール」) を入力します。
- アンインストール・プロセスが完了したら、「F: 完了」を入力します。

付録. アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害や視覚障害などの身体障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。IBM は、年齢や能力を問わず、すべての人が便利に使用できる製品の提供に努めています。本製品では、標準的な Web ブラウザー・ナビゲーション・キーを採用しています。

IBM Analytical Decision Management はブラウザ・ベースのアプリケーションであるため、例えば、視覚障害者のような障害者向けのアクセシビリティ・オプションは、Web ブラウザーの設定によって制御されます。キーボード・ショートカット、スクリーン・リーダーなどのユーザー・インターフェースの操作について詳しくは、ご使用の Web ブラウザーの資料を参照してください。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Analytical Decision Management では、IBM 使用許諾契約書で保証されていない何らかのベンダー・ソフトウェアを使用する必要があることがあります。これらの製品のアクセシビリティ機能について、IBM は一切の保証責任を負いません。ベンダー製品のアクセシビリティ情報については、それぞれのベンダーにお問い合わせください。

IBM とアクセシビリティ

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントについて詳しくは、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119

Armonk, NY 10504-1785

US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用範囲

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アクセシビリティ 25
- アンインストール
 - アップデートの一覧 23
 - インストール・ウィザードの使用 23
 - コンソール・モードを使用する方法 23
 - 製品 23
 - パッケージ 23
 - コンソール・モード 24
- インストール 1
 - インストール・ウィザードの使用 8
 - コンソール・モードを使用する方法 8, 10
 - サイレント・モードを使用する方法 8
 - 製品の起動 17
 - セキュリティに関する注意 21
 - 前提条件ソフトウェアのインストール 3
 - 特定のパッケージ・バージョン 8
 - パッケージ 8
 - ローカル ILOG ルールの使用 14
 - IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定 13
- ウィザード・モード 3
 - アンインストール 23
 - インストール 8

[カ行]

- 開始
 - IBM Installation Manager 3
- 拡張
 - インストール 8
- 検索、更新の 5
 - コンソール・モード 6
- 更新
 - アンインストール 23
 - コンソール・モード 24
- コンソール・モード 3
 - アンインストール 23
 - 製品、パッケージ、および更新 24
 - インストール 8, 10
 - リポジトリ 6

- コンソール・モード (続き)
 - Passport Advantage 7

[サ行]

- サイレント・モード 3
 - インストール 8, 12
- サンプル・アプリケーション 19
- サンプル・アプリケーション用成果物 19
- サンプル・アプリケーション用データ 19
- サンプル・アプリケーション用ファイル 19
- サンプル・データ 19
- サンプル・ファイル 19
- 資格情報 5
 - Passport Advantage 7
- 事前にビルドされたアプリケーション 19
- 製品
 - アンインストール 23
 - コンソール・モード 24
 - インストール 8
 - 製品のインストールと構成 1
 - 製品の起動 17
 - 設定
 - リポジトリ 5, 6
 - Passport Advantage 7
 - 前提条件ソフトウェアのインストール 3

[タ行]

- データ・ファイル 19
- デモ用成果物 19

[ナ行]

- 認証済みリポジトリ 5

[ハ行]

- パッケージ
 - アンインストール 23
 - コンソール・モード 24
 - インストール 8
 - 旧バージョン 8
 - コンソール・モードでのインストール 10

[ラ行]

- リポジトリ
 - 指定、設定での 6
 - 接続のテスト 5
 - 設定 5
 - リポジトリ・ロケーションの削除 5, 6
 - リポジトリ・ロケーションの追加 5, 6
 - リポジトリ・ロケーションの編集 5, 6
- ローカル ILOG ルールの使用 14

- IBM Installation Manager 3
- IBM SPSS Modeler Server の名前と資格情報の設定 13
- IBM パスポート・アドバンテージ
 - 環境設定の設定 7
- Installation Manager 3

S

- SSO 21
- SSO の有効化 21

